

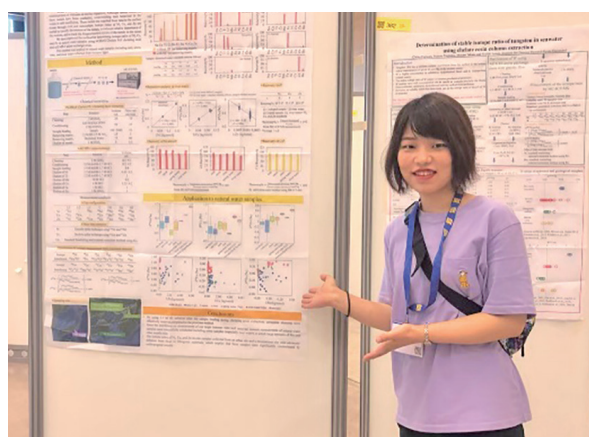
令和元年度伊藤光昌氏記念学術助成金(海外渡航助成)成果報告書

研究課題番号	H31-T2
研究代表者	土屋 真緒
所属・職 (または学年)	京都大学化学研究所 水圏環境解析化学 宗林研究室修士2年
渡航目的	Goldschmidt 2019にて発表と情報収集のため 発表タイトル: Improved Isotopic Analysis for Ni, Cu, and Zn and its Application to Natural Water
渡航先	バルセロナ, スペイン

8月中旬にスペイン、バルセロナにて開催された地球化学に関する国際学会 Goldschmidt 2019に参加いたしました。Trace metal cycling and radioisotope tracers of ocean biogeochemistry (GEOTRACES) のセッションにおいて、Ni, Cu, Zn 同位体分析法の改良と自然水試料への適用について2時間のポスター発表を行いました。ポスター作成の際、地球化学分野の専門的な知識を持つ方々に英語で説明しなければならないことを意識して、詳細な分析条件をまとめ本番ではなるべく平易な文章だけで説明できるように心がけました。先生方にアドバイスを頂きながら、直前まで修正いたしました。

当日は、同じく自然水について研究されている方々や他の重金属の分析をされている方から、分析法について多く質問をいただきました。ポスターには記載していない細かな部分について聞かれて自分が気づいていなかった視点に思い至ったり、図の内容をうまく伝えられず理解が不足している点を自覚したりと、大変勉強になりました。

学会中には、自分の研究テーマの分析結果をより深く理解したいと考え、海洋の微量金属をはじめ大気汚染など様々なセッションの発表に参加しました。これらの発表を聞くことを通して、自分



のテーマと関連する研究との関係が少しずつはつきりしていき、後々文献を探す際にも役立ちました。特に、安定同位体比を用いたエアロゾル中 Cu, Zn の起源追跡についての発表は、内容だけでなく図表の構成や話し方が大変わかりやすく参考になりました。

今回、初めての国際学会に参加し大変有意義な経験ができました。実際に研究者の方々と交流することができ、多くの学びに繋がりました。また、英語を扱う能力を向上させたいと感じました。最後に、このような貴重な機会を与えて下さった先生方、海洋化学研究所の皆様には厚く御礼申し上げます。